

英雄伝説閃の軌跡 小話

七瀬彩葉

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

もし、クロウが帝国解放戦線に関係していない、ただただ平和な世界にいたら。

もし、ラインが生徒会副会長だったら。

もし、旧VII組が普通の高校2年生だったらという世界。

目次

英雄伝説閃の軌跡

小話

—
1

英雄伝説閃の軌跡 小話

クロウ「暑い…なんでこんな暑い日に補習だよお……」

夏休みの教室にクロウの声が響く。

ガイウス「それ、さっきも言っていたからな？少しは集中したらどうだ？」

ここは2年の教室内。クーラーはかかっているが、それでも暑い。

クロウ「でもよ、こんなに暑い教室で補習受けるくらいなら、どこか行きたくねえか……？」

マキアス「内申書に響くからな？あと、まだ始まったばかりだ」

クロウ「……そうだ」

クロウ「という訳で、補習をさぼってプールで水鉄砲使ってバトルしようぜ！」

ユーシス「だからといってあの担任には、見つからないようにな？」

結果、4人はプールで水鉄砲使ってバトルを開始した。

モブ「副会長〜」

どこか呆れた様子で、モブが生徒会副会長のリインを呼んだ。

リイン「いったい何があったんだ」

モブ「実は、副会長のクラスの補習受けていた4人の男子が、
水鉄砲使ってバトル
しているそうです」

補習をさぼってプールでバトル……………!?

それはさすがに怒られる気がする。

リイン「……少し、確認してくる」

リイン「なんだこれ」

その時、リインの顔面に水がかかった。

クロウ「やべ、リインに見つかったんだけど。ガイウス、どうするよ?」
そこでガイウスに聞くのかよ。

ガイウス「じゃあ」

リイン「や…やったなあっ!」

マキアス&ユーシス「はい!?! 乗り気じゃないか…」

アリサ「何か声が聞こえるわね」

ラウラ「まさか、さぼっているのではあるまいな…？」

エマ「私達、Ⅶ組ならあり得ますけどね」

アリサ達は、プールの扉を開けた。

アリサ「ひゃあっ！」

一瞬、何が起こったのか。

アリサの顔面ではなく、胸に大量の水がかかった。

リン「へ。」

アリサ「逃げるが勝ちかもしれないわ、サラ教官に報告してくる！」

エリオット「——！」

エリオットが何かに気づいた。クーラーのきいた教室に行くと、リンら男子全員がいなくなっていた。

エリオットは声が聞こえるプールの方に走った。

エリオット「って何してるの!？」

大声でエリオットが叫ぶ。

マキアス「…なんかエリオットの声聞こえなかったか？」

最初にエリオットの声を聞いたマキアスが、声の聞こえたドアの方に言いながら歩いていった。

リイン「あ、俺も見てくる」

そう言つてドアに行き、ドアを開けた。

しかし、それが問題だった。

次の瞬間、全員にホースの水がかかった。

2回目となる攻撃は、もはやただの激痛。

そしてリイン達は、エリオットに向かって水鉄砲を撃った。

サラ教官「楽しんできたのは良かったけど、ちゃんと補習は受けなさいよ。おかげで2時に終わるはずの補習が6時に終わることになったのよ。あたしは少し買い出しに行つてくるから、ちゃんと補習受けなさいよ」

男子全員『はい……』

ラウラ「あと、男子全員ジャージ着替えてきてくれ。説教は、まだ終わっていないからな」

クロウ「マジかよ……」

その後、ジャージに着替えてきた男子全員は、ラウラに追加の説教をくらい、男子全員が風邪をひいた。

しかし、そのおかげか、男子全員の水に濡れた写真と薄い本が学校祭でたくさん売れたとか。

誰が撮って誰に渡したのかは、みんなに推理してもらいたい。